

ようこそ先輩

ハーバード大学名誉教授 岸 義人 博士 を迎えて

平成26年2月19日（水）に理数科1・2年生は、本校の卒業生でハーバード大学の名誉教授である岸 義人 博士を迎えてお話を聞きました。岸博士は、名古屋大学で平田義正教授の下で、下村脩ボストン大学名誉教授（蛍光タンパク質の発見でノーベル賞を受賞）と一緒に研究を行いました。先生は、フグの毒であるテトロドトキシン、イワスナギンチャクのもつ猛毒パリトキシンなどの複雑な天然有機化合物の構造決定と合成をおこないました。

主に当時の高校生活やアメリカでの研究などについて紹介され、生徒からの質問に答える形で進みました。生徒からは、「アメリカと日本の大学の違い」や「研究で苦労したこと、喜び」「進路を考える上で参考となること」「なぜハーバード大学で研究するようになったか」「アメリカと日本の食生活の違い」など多くの質問がされ、一つ一つに丁寧に答えていただきました。



岸 博士 略歴

1937年 名古屋市生まれ
1957年 加茂高校卒業
1961年 名古屋大学理学部化学科卒業
1966年 名古屋大学大学院博士課程修了
理学博士
1966年 名古屋大学理学部化学科助手
1966年～1968年
ハーバード大学留学
1969年 名古屋大学農学部助教授
1972年 フグ毒テトロドトキシン合成
ハーバード大学客員教授
1974年 ハーバード大学教授
1992年 ハリコンドリンB合成
1994年 パリトキシン合成
1997年 ハーバード大学名誉教授
恩賜賞、日本学士院賞、アメリカ化学会賞、
文化功労者顕彰など多数受賞

生徒の感想

- ・ハーバード大学教授と聞いたときには難しい話をされるのかなと思っていたけれど、興味ある内容の話を聞くことができました。中でも入学するのが大変な日本の大学と入学後の勉強が大変なアメリカの大学という教育の違いや、アメリカの大学では全寮制で他の学生と共同生活をする中で、友人関係を築いていくことなどを知ることができました。
- ・岸先生のお話で印象に残っていることが、勉強をするばかりでなく、時には手を休めて校外活動などにも参加して、視野を広げることが大切だということです。アメリカでは、大学入試は成績だけでなく、課外活動についても評価されるということを聞き、大切なことだと思いました。
- ・勉強は何でもかんでも覚えるのではなく、基本的な事を確実に理解しておくことが大切だということを知ってそのとおりだなあと感じました。
- ・人よりも5%多く頑張ると、それが積み重なることで成果が現れるということを知って、やはり積み重ねが大切なんだと感じました。